

【議事概要】第 33 回 浜田市行財政改革推進委員会

日 時:平成 27 年 9 月 15 日(火) 13:30~15:30

場 所:浜田市役所本庁 4F 講堂C

出席者

- 【委員】大橋敏博委員、光延忠彦委員、~~岩谷百合雄委員~~、榎岡正明委員、宮内浩二委員、神田純弘委員、~~大谷克雄委員~~、~~花田香委員~~、賀戸ひとみ委員、細川良一委員、玉置龍一委員、芳川榮佑委員、~~熊谷富雄委員~~、加藤喜六委員、市山多津子委員、下谷巧委員、~~佐古肇徳委員~~、
- 【市】副市長、総務部長、地域政策部長、政策企画課長、行財政改革推進課長
-

1 報告事項

(仮称)第 2 次 浜田市総合振興計画(素案)について

- ・標題報告事項について、資料を用いて政策企画課長から説明

2 協議事項

浜田市行財政改革大綱の策定について

- ・大項目ごとに、資料を用いて事務局から説明後、委員からの意見、質疑を受けた。
- ・委員意見、質疑の詳細については、別紙のとおり。
- ・この意見をまとめ、事務局で修正案を作成した上で、次回の推進委員会へ提示する。

3 その他

- ・今後のスケジュールについて事務局から説明

【資料】

- 資料 1 (仮称)第 2 次 浜田市総合振興計画【素案】
- 資料 2 (仮称)第 2 次 浜田市総合振興計画【素案】(部門別計画)
- 資料 3 浜田市行財政改革に対する提言等
- 資料 4 浜田市行財政改革大綱(素案)

《今後の予定》

- 9 月 29 日(火) 第 34 回浜田市行財政改革推進委員会
- 9 月 30 日(水) 浜田市議会自治区制度等行財政改革推進特別委員会
- 10 月 1 日(木)~パブリックコメント

委員意見等(要点筆記)

委員意見	浜田市回答
I 改革の背景	
<p>職員一人当たりに対する仕事量について、管理職は把握しているのか。</p>	<p>今進めている浜田市定員適正化計画を策定する際は、事務事業量調査を外部機関で実施し、その結果をもとに人員配置や人員削減を進めてきた。</p> <p>その後については、毎年、年 2 回の管理職ヒアリングや職員を対象にした自己申告書により事務事業量の把握に努めている。</p>
<p>いろんな理由から忙しくなっていると思うが、市役所として変えていこうとしていることは何かあるのか。</p>	<p>現状の職員数の確保を目的とした定員適正化計画の見直しの検討、またアウトソーシングについても積極的に進めていかななくてはならないと考えている。</p>
<p>権限移譲などで業務量が増えているという話があるが、市役所が全ての業務を抱え込もうとしているのがいけない。</p> <p>市民ができることは市民でやっていくような社会の仕組みを作らないと行政改革はできない。職員だけでやるのは無理。</p> <p>この考え方を市民全体に広げることができるかどうか、これが行財政改革の基本にならないといけない。</p>	<p>この視点については大変重要と考えており、大綱の 11 ページには、「市民との協働によるまちづくり」を柱のひとつとしてあげている。</p> <p>この項目の中でしっかり議論していくとともに職員だけでなく、市民の皆さんにも一緒に考えてもらいながら、まちづくりを進めていきたい。</p>
<p>民生委員が行う仕事を、市の担当課も行っており、業務が重複しているように感じる。</p> <p>民生委員に任せたのであれば信頼してもらい、数か月に 1 回会議の場を設ければよい。</p> <p>同じような内容で、同じ人を回るのはどうかと思う。</p>	<p>同じことを何度も行う無駄についても行財政改革の中で整理していかなければならない。</p> <p>具体的に考える中で、どこに線を引くか等、関係部署や市民の皆さんと相談しながら進めていきたい。</p>

委員意見	浜田市回答
Ⅱ 行財政改革の必要性	
<p>浜田市所見の中に「浜田市の独自性については、行財政改革実施計画の中で表現していきたい」とあるが、既に何か考えがあるのか。</p>	<p>現在、内部で検討を進めており、ある程度整理ができ次第、この推進委員会でも報告することとしている。</p> <p>具体的な内容は言えないが、浜田市がしなくてはいけないことについて提案しようと考えている。</p>
<p>浜田市らしい所を何か言えるものがあればお願いしたい。</p>	<p>総合振興計画で積極的な施策を進めながら、きちんと行財政改革を進めていこうとしている。独自性と言えるか解らないが、他ではやらないこと、他ではできないことができないか考えていきたい。</p>
<p>「行財政改革の必要性」の文言を見ると、少子高齢化や人口減少など暗い言葉ばかりが並んでおり、イメージダウンに繋がるのではないか。</p> <p>市民は一生懸命働いて、元気を取り戻そうとしている。もう少し将来の夢を描き上げるような、明るい文言にしてはどうか。</p> <p>締めくくりに、将来の夢を見ることができるよう表現にしてもらえば、市民も理解しやすい。</p>	<p>財政状況や人口減少など暗い状況が無ければ行財政改革も必要ないため、どうしてもこのような表現になってしまう。</p> <p>将来に明るい見通しを立たせるために行財政改革を進めていこうとしており、明るい部分の計画については、総合振興計画で記載しているのでご理解いただきたい。</p> <p>表現について、見直すことができる部分があれば検討する。</p>
Ⅲ 行財政改革大綱の位置付け	
<p>大綱の中に中期財政計画や公共施設等総合管理計画といった計画の内容の柱くらいは出てこないといけない。</p> <p>何を中心に取り組み、各種の計画をどのようにするのか、これがある程度、総合振興計画を補完する形で出てこない、このままの行財政改革大綱であればなくてもよい。</p>	<p>Ⅲでは、この大綱の位置づけについて記載しており、具体的な取り組みについてはⅣの中で2つのテーマと4つの柱をもって示している。</p> <p>今後、この内容に基づいて、行財政改革実施計画を策定する中で、具体的な取り組みの細かいところを示していきたいと考えている。</p>

委員意見	浜田市回答
<p>「実質単年度収支の赤字を解消し、身の丈に合った行政運営を目指す。」とあるが、「赤字の解消」と「身の丈に合った行政運営」はどのように関連するのか。</p>	<p>行財政改革の基本的な考え方は、実質単年度収支を赤字から脱却していくこと。</p> <p>また「身の丈に合った行政運営」というのは、浜田市の予算規模が 400 億円を超えており、類似団体と比較しても大きく、その点については、身の丈に合っていないという認識のもと、このような表現を用いている。</p>
<p>8 ページのイメージ図について、解りにくいの で説明してもらいたい。</p>	<p>上の矢印は歳出が多くこのままでは赤字になることを示したもの。これを下向きの矢印のように歳出削減をすることで、下の矢印まで下げていく。また、上向きの矢印のように歳入確保によって歳出額を増やすことができる。</p> <p>つまり、今のままだと、赤字になってしまうが、歳出削減と歳入確保によって黒字にもっていくという図となっている。</p> <p>上の矢印が平成 26 年度に示された中期財政計画の予算額であり、将来は赤字になる状況。</p> <p>それを、歳出を抑えて、歳入を確保することで下の矢印へ持っていくような取り組みをしなければならぬという図になっている。</p> <p>赤字に転落すると、夕張市のように自らの市政運営ができなくなる。つまり、国の管理の中に置かれてしまうので、これは避けなければいけない。</p> <p>浜田市も少し前は非常に危険な状況だったが、今は非常に改善している。しかしながら、将来が厳しい状態になることが予想されており、赤字にすることはできない。</p>

委員意見	浜田市回答
<p>予算規模が類似団体と比較して大きいという話があったが、それは浜田市特有の事情ということだと思います。</p> <p>極端に言えば、赤字が膨らんでも浜田市はこれをするというものがあれば、市民は納得すると思う。</p>	<p>浜田市は合併に伴う優遇措置があり、それに合わせて積極的なまちづくりを進めてきた。それが終了することにより、方針を転換しなくてはいけないという面もある。</p> <p>また、類似団体の中で約1.3倍の予算規模というのは、同じように合併した団体もある中で、少し多いのは事実。それは特色あるまちづくりでもあるが、いつまでも続けていくことはできない。同じような規模の団体並みにすることが、無理をしない身の丈に合ったという所に繋がるのではないかと考えている。</p>
<p>上の赤いグラフが中期財政計画で示された歳出。それを行財政改革の実行によって歳出を抑え、青いグラフになるということと思うが、歳出を抑えると言うことだけなら解るが、そこに「歳入確保」や「赤字」、「黒字」というネットの数字が混在しているので解りにくい。</p> <p>歳入確保により、歳出を押し上げるようなイメージで描かれているのか。</p>	<p>歳入確保については今で言えば「ふるさと納税」、今後は三隅火電ができれば固定資産税の収入なども考えられる。</p> <p>そのイメージで描いているが、言われるとおりに、2つを同時に示すのは解りにくいかもしれない。</p>
<p>IV 行財政改革 2つのテーマと4つの柱</p>	
<p>ロードマップには、瀬戸ヶ島や御便殿の整備にかなりの金額が出ていたが、財政計画でこれをどう受け止めるのか。</p> <p>新たな投資が必要なものは他にもあると思うが、次期総合振興計画ではどの程度を見込んでいるのか。</p> <p>全てを実施すれば財政は破たんする。新たな投資が必要になってくる中、財政計画の中でどのように吸収しようとしているのかを具体的に明らかにするべき。</p>	<p>瀬戸ヶ島等にどういった財源が必要なのかは、今は計画を見直しており、これから出てくるもの。</p> <p>また、民間活力を利用して実施していこうとしているため、市の自主財源は当初出た総事業費ほど掛からないと考えている。</p> <p>中期財政計画では、この辺りを見込んで策定するが、全ての計画を長期的に盛り込むことは不可能。ただし、財政破綻は避けなければならないため、財源確保ができるよう財政計画を立てていく。</p>

委員意見	浜田市回答
<p>瀬戸ヶ島や御便殿を進めていくなれば、防災計画についても考えてもらいたい。</p> <p>観光開発が悪いとは言わないが、まず市民の生命や財産を守ることを第一に考えていかないと、この計画は成り立たない。</p> <p>観光地を作ると、建物がある限り維持管理費は浜田市の負担になる。その点についても、よく考えていかないと市民の賛同は得られないのではないか。</p>	<p>防災の視点については総合振興計画にゆだねており、部門別計画 64 ページ「災害に強いまちづくりの推進」の中で、防災に配慮したまちづくりを進めていかないといけないということをいくつかの事業とともに記載している。</p> <p>また、中期財政計画についても、防災の視点を踏まえて毎年見直しをしていく。</p> <p>また、決して防災を疎かにしているわけではなく、入込客を増やしていくためには、ある程度の観光戦略も必要だと考えているので、その点を総合的に判断しながら施策を進めていきたい。</p>
<p>片方では「スリムな行政の構築」といい、もう一方では観光開発に何億円も掛けている。</p> <p>どちらも両輪のように同じ比率で進んでいくならいいが、これから先、人口減少が進む中、何をメインにして行政運営をしていくのか。</p> <p>もう少し現実的な話が無いと、納得してもらえないと思う。</p>	<p>公共施設については、柱の一つとして取り組むこととしており、公共施設再配置実施計画(仮称)を策定することとしている。</p> <p>そこでは、公共施設を新たに建設する場合は、それに見合った床面積を削減する方向で考えており、今後具体的な計画を策定することになるが、その中で、委員の皆さんにもしっかり議論していただきたいと思っている。</p>
<p>総合振興計画の財政的な裏付けは行財政改革大綱でないといけない。</p> <p>例えば、12 ページの「公共施設マネジメント」でいうと、前段にはいろんな事が書いてあるが、肝心な内容は後段の 3 行から 5 行程度。</p> <p>方向性に異論はないが、具体的にどうやって進めていくのかという中身が無い。</p> <p>市民は方針の具体的な内容を一番知りたいはず。もう少し具体的に記載し、数字的な裏付けを示したうえで、公共投資はこの範囲でやりますという内容にならないといけない。</p>	<p>これは大綱であり、大綱策定後 3 月までに、実施計画を策定していく。</p> <p>その際には、委員のみなさんにも審議していただくことになるのが、具体的な内容については、この大綱に基づいて策定していくことになる。</p> <p>今までの実施計画では、個々の計画について効果額がいくらかを示しているように、今回についても、実施計画の中で具体的な項目について示させていただきたい。</p> <p>またその際は、委員の皆さんにご検討いただくこととしている。</p>

委員意見	浜田市回答
V 推進方法	
<p>実施計画の中で赤字解消を目指すところがあるが、削減額だけを目指すのか、赤字解消年度やどの程度まで黒字にするという所までを目標にするのか。</p>	<p>単年度で赤字が出ることは行政運営上許されない。どうしても赤字となる場合は、基金の取り崩しと言う手法も考えられるが、なるべくそうならない行政運営をしていきたいと思っている。</p> <p>いつまでに黒字ということについては、期間中でも単年度で収支のバランスが取れた財政計画になるようにしないと行けない。</p> <p>これが行財政改革という一定の期間の中での話であり、今中期財政計画に示されている金額について、その間の赤字金額をトータルで黒字化していくという考えである。</p> <p>また、今は平成 26 年度中期財政計画の中で 20 億円という目標金額を示しているが、今後の中期財政計画での赤字額の増減によっては、それに見合った形で、実施計画の見直しをしていかなくては行けないと考えている。</p>
VI 実施期間	
なし	
VII 推進体制と情報公開	
<p>行財政改革推進委員会とは別に、自治区制度等行財政改革推進特別委員会とあるが、これは違った委員で違った内容を審議するのか。</p>	<p>大綱(素案)の 14 ページの図にあるように、自治区制度等行財政改革推進特別委員会は議員で構成されている市議会内部の委員会となっている。</p> <p>審議内容については、この推進委員会と同様の事項について審議していただいている。</p>
<p>自治区制度等行財政改革推進特別委員会とあるが、自治区制度は平成 33 年度で終了するのではないのか。</p>	<p>平成 28 年 4 月から新たな自治区制度を 4 年半設けることについて先般条例改正を行っている。それ以降については、その半年前を目途に継続について検討することになっているので、今時点で廃止という結論は出ていない。</p>

委員意見	浜田市回答
<p>自治区制度については、このまま継続すると、財政面などいろいろ弊害が出ると思う。</p> <p>いずれは1つの浜田市をつくるという目標をどこかに謳っていないと、4年半後また継続するというようなことが起こらないか心配がある。</p>	<p>現状では4年半は継続し、その後については、皆さんのご意見をききながら結論を出すということにしているため、ここで結論を出せないことをご理解いただきたい。</p>
<p>検討の際は、財政の面から説明されると市民も納得できるのではないか。</p>	<p>検討の際は、あらゆる面からの資料をお示しさせていただく。</p>
<p>自治区制度にお金はかからない。そういう制度にこれからしないといけない。</p> <p>今、自治区制度に頼らないまちづくりをどのように進めるかについて協議を進めてもらっている。</p>	<p>(回答なし)</p>
<p>自治区制度について市民から意見を聴く機会があったと思うが、その結論については新聞で見て知った。</p> <p>その議論の内容が不透明だと感じた。市民から意見を聞いたのであればその経過について、きちんと情報を公開してもらいたい。</p>	<p>広報不足だったかもしれないが、少し遅れて8月号の広報に内容を紹介する記事を掲載するとともに、CATVに市長自らが出演して自治区制度について説明した。</p> <p>4月から制度が一部変更するので、その機会には再度お知らせしなければならないと感じている。</p>
<p>地域協議会は合併の際の約束事でできたものであり、各自治区にそれぞれ良い所がたくさんある中、地域協議会をなくせばいい、自治区制度をなくせばいいということではない。</p> <p>合併より広くなった浜田市において、行政サービスが隅々まで行きとどかないのではないかという懸念があり、自分たちは残さないといけないと考えている。</p>	<p>(回答なし)</p>

本日の結果をまとめた上で、修正案を次回の推進委員会で提示する。